スクールホットライン

親子でLet's 草取り from 志水小学校

七月二十七日（月）は、夏休みの一回目の出校日でした。

夏休みに入ってわずか一週間しかたっていませんが、真っ黒に日焼けした子どもたちがたくさんいました。「海へ行ってきたよ」「遊園地で乗り物にのったよ」という子もいれば、夏休みの日誌やドリルの宿題等をたくさんやってきた子もいて、充実した夏休みを過ごしている様子がうかがわれました。

志水小学校では、毎年一回目の出校日に「親子除草」を行っています。今年度は、保護者が百四十名ほど参加してくださり、猛暑の中、草取りに励みました。

低学年の子どもたちは、校舎から出てくると、自分のお母さんやお父さんを見つけて手を振ったり、友達のお母さんに声をかけてもらったりしてうれしそうでした。

最初に全校あいさつをしたあと、学年ごとに草取りの場所へ移動しました。夏の間に、雑草はみるみる成長しており、子どもの背丈を超すくらい伸びている雑草もあります。根っこから草が抜けると、「やったー」「先生、見て見て」と歓声が聞こえてきます。また、一年生の力では、なかなか抜けない雑草を、お母さんが手を添えて一緒に抜くような微笑ましい様子も見られました。

わずか二十分間でしたが、汗を拭き拭き、みんなが一生懸命に草を抜いたおかげで、校庭の隅や花壇に生い茂っていた雑草がきれいさっぱりなくなりました。最後に、手伝ってくださったお父さんお母さんに感謝の気持ちを伝えて草取りを終えました。取った雑草は、ごみ袋二十五袋にもなりました。

出校日に元気な子どもたちの姿が見られ、担任一同安心しました。新学期になり元気に登校してくれることを願っています。

まなびすと

豊山今昔ものがたり

第百八十二話 全国放送された青年学級

今から六十五年ほど前の昭和二十六年一月、豊山村青年会が結成されました。

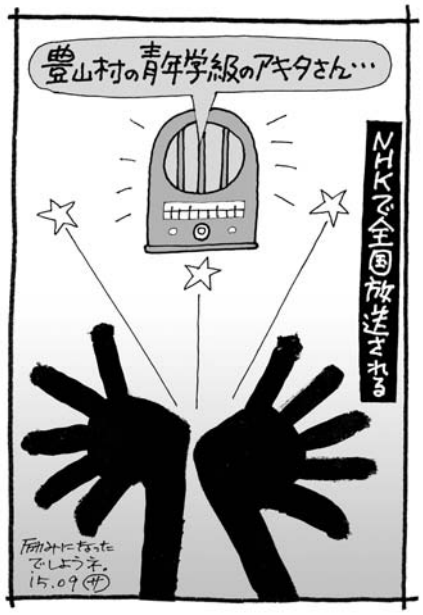
当時の豊山は「村」であり、戸数は七六七戸、人口は四千百八十一人で、ほとんどが農家でした。しかし、戦争の終わりころに村域の三分の一を飛行場に提供したため、農業では生活できなくなり、青年の大部分が給料生活者となりました。

新三菱重工が建設されたため、入所者が増加しました。青年の在住者は五百七十八名で、青年会活動に参加している者は二百七十一名で、そのうち青年学級に参加している者は百五十五名でした。

青年学級は一般教育課程として、講座を開講していました。講師には専門の先生を招いていました。また、講演会も開催してより知識見聞を広めてもいました。研究部として、洋裁、料理、農事、文芸、書道の科目があり、参加者は熱心に取り組んだものでした。文芸部は文章を勉強して、発表もしていました。中でも秋田淳青年が執筆した「強く生きたい」という自身の生活の作文は、NHKラジオで全国放送されたので、豊山村の青年学級活動が大きく報道されました。

昭和二十八年には文部省と愛知県から実験指定団体として指定を受けて、「新しい委員会活動」を主体とした学級運営をテーマにして、学級の組織運営や問題点、活動内容をまとめて、昭和二十九年二月二十一日に、豊山中学校の講堂で盛大に発表会を開催しました。

小さな村の青年学級は注目を集める活動を重ねてきましたが、日本中が高度経済成長している昭和三十九年には参加者の減少により活動を続けることが困難となり、消滅しました。

今は昔の物語です。

（豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました）